

内に出現したのは全長3.3.8 mmと3.8.0 mmの2尾でグルクマと思われる種魚である。東支那海域と黒潮主流域に出現した稚仔魚はゴマサバに似ているがまだ確証がないのでサバ属種不明にした。

1網当りの時刻別出現量は図-31に示される通りである。06-08時の階層が最も高く1網当たり28.4尾、ついで18-20時の階層で1網当たり2尾、夜明と夕方に多く出現した。

1網当りの出現点の表面水温別出現個体数は図-32に示した通りである。出現点の表面水温範囲は19.6-23.5°Cでモードが23-24°Cにある双峰型になった。個体数

加重平均水温は23.2°C、出現点数加重平均水温は21.7°Cである。つぎに出現個体の全長組成は図-33に示した通りである。この月別の全長組成から東支那海域、黒潮主流域のサバ属の産卵期と成長がある程度推測される。1月に全長4.0 mm以下の仔魚が多量に出現したことからその時期がサバ属の産卵時期と推定され、その時期の仔魚が2月には全長8.1-10.0 mm前後に成長し、3月には14.0 mm前後まで成長するものと思われる。なおサバ属の薩南での産卵期は1-2月といわれており、沖縄近海でのサバ属の産卵期も1月と推定してもなんらさしつかえがない。

Scomteromorus sp. サワラ属種不明 (1回出現、1尾)

1974年5月のB-5に全長5.1 mm 1尾が出現した。

30. *Histiophoridae* マカジキ科 (10回出現、11尾)

Makaira mitsukurii (JORDAN et SNYDER) マカジキ (8回出現、9尾)

夏期から秋期に出現し、出現盛期は夏期、出現海域は沖縄南部と北西部のE岸50 km以内と黒潮主流域である。出現個体の全長範囲は5.3-12.8 mm、出現点の表面水温範囲は24.8-29.0°Cで昼間に多く出現した。

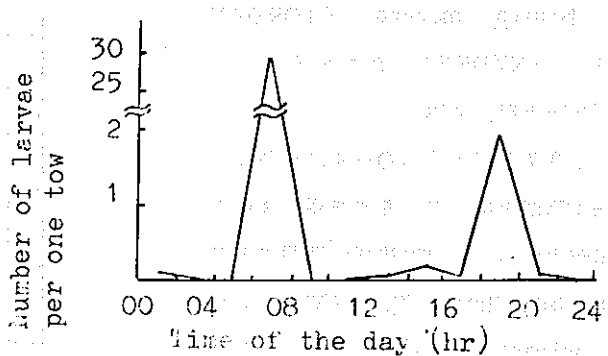


Figure - 31 Relationship between time of the day and occurrence of *Scomber* sp. per one tow

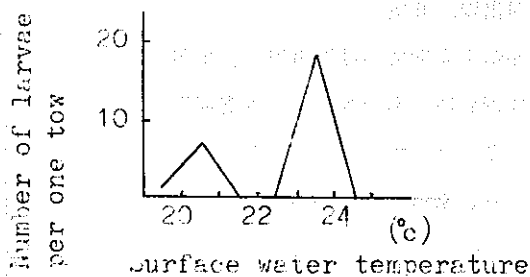


Figure - 32 Relationship between surface water temperature and occurrence of *Scomber* sp. per one tow